

長崎県におけるスギタマバエの分布

長崎県総合農林試験場 滝 沢 幸 雄
宮 崎 徹

森林有害動植物被害調査報告¹⁾の記録によると、本県のスギタマバエ被害は1959年に長崎営林署管内長崎事業区で発生したのが最初で、その後慢延して、場所によってはかなりの被害を与えている。そこで、現在県下の被害実態がどのようになっているかを被害分布と被害度について調査した。この調査の結果は、今後の被害推移と被害消長の基礎資料としたい。

1. 調査方法

県下を8地域に区分(平戸、対馬はスギ林分が少ないので除外した)し、これらの地域のスギ林分から296地点をランダムに抽出し、1地点から調査木3本を選定して被害率(3本×3枝=9枝について)を算出した。被害度は無害(被害率0%)、微害(被害率1~20%)、中害(被害率21~50%)、激害(51~100%)とした。この調査は1972年11月~1973年3月の間に実施し、調査林分の林令、品種、樹の大きさ、疎密度および立地条件などについても調査した。

2. 結果と考察

被害分布は図-1に示した。この図から県下の被害

分布は、対馬を除く全地域におよんでいることがわかった。被害度はスギの品種、樹令、造林地の立地条件、薬剤の防除歴や天敵の寄生状況などの要因を考慮して総合的に判断すべきであるが、ここでは調査地域別の被害実態を示した。被害度は地域によってかなりの変動がみられるが、これを地域別についてみると大村・東彼地区、上五島地区、長崎・西彼地区で激害の占める割合が50%以上を示していることから、最も被害度が大きい地域であると言える。次いで、下五島地区、諫早・北高地区の順で、県北地区の被害が最も軽微である。このように、被害度の水平分布は県の中央部から南北の地域に傾斜が認められることから、被害の推移は県北および県南へ北上、南下したことを示唆している。

被害の垂直分布は標高20mから700mまで認められ、被害度には標高差によるちがいが認められなかった。

これらのことから、現在、被害が軽微である県北地区では今後の被害動向に、被害が皆無の対馬地区では、木虫の侵入阻止のために十分警戒を払う必要がある。

参 考 文 献

- 1) 林野庁; 森林有害動植物被害調査報告 1959

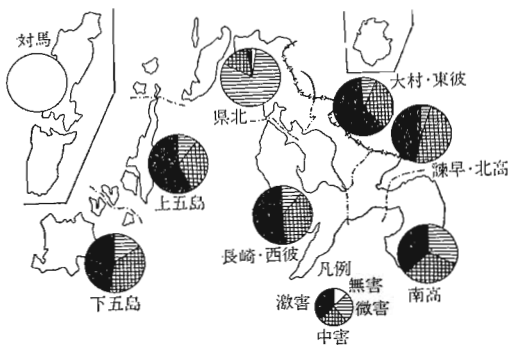


図-1 地域別の被害度成虫の発生(羽化)状況